

第1回
定例会

一般質問

第1回定例会の一般質問は、3月16日、17日の2日間行われ、9名の議員が登壇し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、執行部に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をただすため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。



鶴見 久美子 議員



フレイル予防の拡充について

問 フレイルとは、健康と要介護寝たきり状態の間を指し、心身的な衰え、心理・精神的な衰え、社会性の衰えの要素で構成される。健康的に生きる意欲につながり、社会性を維持しフレイル進行を防ぐには、家族や自治体、介護予防サービス職員などの支援が重要である。市としての支援拡充の取り組みについて伺う。

答（健康推進部長） 現在、フレイル予防のため各種講座等を実施し、後期高齢者健康診査ではフレイルの特徴の把握に努めている。来年度は、高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施事業としての食生活改善健康教室を市内全域に拡大する。今後も関係課と連携し事業内容を充実させ、専門職等が高齢者の状況に応じた支援をすることで健康寿命の延伸につなげたい。



高齢者支援施策について

問 少子高齢化が進み、生きるために必要な意欲や能力を失い、日常生活に支障が出てしまい、ごみ出し困難世帯も増えてくる。高齢者等ごみ出し支援事業を導入すべきと考えるが、市としての課題と所見について伺う。

答（市民部長） 高齢等を理由としたごみ出しの相談は少ないが、他市町の状況から支援施策の必要性を認識している。引き続き福祉部門と連携し、福祉サービスの提供に至らない方たちを対象に既存制度の拡充や、地域住民との調整、ボランティアの周知等を進め、ごみ出し困難者が発生しないよう努めたい。